

全日本ジュニア／ユース／マスターズ選手権大会 2019（サーフ）における

競技規則の訂正および補足について

【競技規則の訂正】

今大会の開催に際し公開している、「オーシャン競技（ジュニア）2019年競技会用」について、一部修正がございます。大きなルール変更はございませんが、誤解なく、より公平を期すために、以下にその詳細を掲載いたします。

●4.ビーチフラッグス

該当ページ：P.10

内容：ビーチフラッグスの図中における文言

・～かかとを合わせる

修正 ～かかとまたは、足のいずれかの部分

※補足：『P.7 (5)競技の方法 ①スタートの姿勢（ア）』に、記載の通りです。図中の文言が誤っています。

●5.ニッパーボードレース 3-4年生

該当ページ：P.13

内容：ニッパーボードレース 3-4年生の図中における数値

・フィニッシュラインの幅 30m

修正 20m

※補足：『P.11 (4)コース ③フィニッシュライン』に、記載の通りです。図の数値のみが誤っています。

●8.タップリンリレー 小4以下（=小1.2.3.4）

該当ページ：P.20～P.21

内容：(5)競技の方法 の文言

・④ スイム区間：～チェンジオーバーラインで待機するニッパーボードパドラーにタッチする。

修正 ④ ～チェンジオーバーラインで待機する次の競技者にタッチする。

・⑤ ボード区間：～2本の折返し旗を回る。

修正 ⑤ ～2本の折返し旗を回り、チェンジオーバーラインで待機する次の競技者にタッチする。

・⑦ ～フィニッシュラインの両端に設置された旗の間を通過しゴールする。

修正 ⑦ ～フィニッシュラインを折返し旗側から通過しフィニッシュする。

※補足：タップリンリレーのスイム区間・ボード区間は抽選で決まるため、順番は不問です。

●9.タップリンリレー 小6以下

該当ページ：P.23～P.24

内容：(5)競技の方法 の番号と文言

・番号⑪、⑫…⑳
修正 ①、②…⑩
・⑭ スイム区間：～チェンジオーバーラインで待機するニッパーボードパドラーにタッチする。
修正 ④ ～チェンジオーバーラインで待機する 次の競技者 にタッチする。
・⑮ ボード区間：～2本の折返し旗を回る。
修正 ⑤ ～2本の折返し旗を回り、 チェンジオーバーラインで待機する次の競技者にタッチする。
・⑰ ～フィニッシュラインの両端に設置された旗の間を通過しゴールする。
修正 ⑦ ～フィニッシュラインを 折返し旗側から 通過し フィニッシュ する。

※補足：タップリンリレーのスイム区間・ボード区間は抽選で決まるため、順番は不問です。

【補足について】

『8.タップリンリレー 小4以下 (=小1.2.3.4)』および『9.タップリンリレー 小6以下』ともに、(5)競技の方法 ⑥に「第2競技者は、水際で待機するランナーにタッチする。ランナーにタッチする場所は、最終のスィミングブイを回った後から第1折返し旗を回る前までであれば、チームの裁量で自由な位置で行なってよい。」とあります。**但し、ランナーは水に入ることは許されますが、いかなるときも泳いではいけません。**

その根拠として、今大会では「ライフセービング競技規則 2019 年版」を基本とするため、タップリンリレーの原則は「オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー」の種目別競技規則に準拠します。同種目の(5)競技の方法 ⑥の注意として「ランナーにタッチする場所は、最終のブイの浜側から浜の第1折返し旗までのどこでもよい。タッチは水面より上で、はっきりと見えるようにしなければならない。**ランナーは戻ってくる競技者にタッチするため水に入り、ウェーディング、ドルフィンスルー、ボディーサーフィンをしてよい。**また折返し旗に向かって走ってもよい。**ただし、ランナーはいかなるときも泳いではならない(ここで泳ぐとは、ボディーサーフィンのため又は波に乗り続けるため水面の上に腕を出してストロークする動作を含む)**」と定義づけされています。

よって、『8.タップリンリレー 小4以下 (=小1.2.3.4)』および『9.タップリンリレー 小6以下』においても、同様の競技規則を適用いたします。

なお、この補足にあつては、**中学生の部・高校生部の部、双方のタップリンリレーにおいても同様です。**

以上